（第3種郵便物認可）　2008年（平成20年）6月2

就労支援に花店

あいりんで好評

「きれいに咲きましたよ」。客に花を売り込む元ホームレスの店員（大阪市西成区の「まちの花屋さん　Ｂｏｎ」で）

ホームレスの就労支援に向けて、大阪市西成区のあいりん地区に、色とりどりの花々が並ぶ「まちの花屋さん　Ｂｏｎ」がオープンした。空き店舗を利用したフラワーショップで、地元企業や野宿者支援に取り組むＮＰＯ法人などが、事業組合を設立して運営している。開店から1か月余りが過ぎて常連客もつき、野宿経験がある店員らは「働けるって、気持ちいい」と張り切っている。

ＪＲ新今宮駅の南約１５０㍍。労働者の簡易宿泊所も立つ一帯に「Ｂｏｎ」はある。アジサイやダリアなどが店頭を彩り、「花があるとなごむわ」と声をかけていく労働者もいる。

店を守るのは、事業組合側から派遣された難波ひと美店長と、元ホームレスの店員2人。その一人、印刷会社を解雇されたという男性（44）は大阪で野宿生活を2年半ほど続けた経験がある。「しっかり働いて生活を立て直したい」と話す。

店は雑貨店だったが、女性経営者が高齢のため廃業し、「地域の役に立ててほしい」と知人に相談。地元で街づくりを進める会社「ナイス」（西成区）が伝え聞き、「仕事に就けない野宿者らを支援しよう」と昨年末、花屋の計画を立て、協力を呼びかけた。

ＮＰＯ法人「釜ヶ崎支援機構」などが賛同して3月、5団体で事業組合を設立。資金を持ち寄って改装を進め、使わなくなった小学校の机やイスを譲り受けるなどして先月、開店にこぎ着けた。同機構とかかわりのあった2人が店員に採用された。

労働者らにペチュニアの鉢を配るなどしてＰＲに努めた成果で早くも街に溶け込み、「種を買って育てたい」と相談に来る客も。事業組合は、自転車に花を積んで街を巡回販売する計画も進めており、ホームレスらの従業員を増やしていく予定だ。

事業組合に加わるビルメンテナンス会社（西区）の福田久美子専務（44）は「人が出会い、互いに優しくなれるような店にしたい」と意気込んでいる。

5団体協力　ホームレスらと巡回販売も計画